

エルコープ（千葉）の「協同組合論講座」企画

本年4月、会員の半田守孝氏（栃木県在住、エルコープ顧問）の尽力により、生活協同組合職員向けの教育研修「協同組合論講座」の企画実施を、エルコープ（千葉）より委託されました。

その講座開催の主旨と運営は以下のものです。

①協同組合の基本的な原理・歴史・世界の運動の流れを探る。

②人間性の原則をより内在化させた、今日的協同組合論の理論化・体系化のステップアップを作り出し、協同組合論教育の方法を探る。

③主たる対象は、生協在籍5～6年の中堅層および上級職員とし、誰でもが参加でき、受講者のニーズ・意識に応える方法をとる。

④資料等による事前学習、講師のわかりやすい講義、参加者の討論による論点の深化、さらに職員向け教育用テキスト作成、資料のデータベース化を行なう。

研究所ではこれまでの国際研究、バーク報告の検討などの実績をもとに、この企画の受託を決定しました。ここに会員の皆さんへこの企画概要をお伝えするとともに、今後も協同組合内の教育研修に関わる企画やテキスト作成等を実現していく研究事業活動にご協力をお願いする次第です。

○第1回 1993年4月29日（終了）○

今、なぜ協同組合か

講師：菅野正純（協同総研専務理事）

内容：協同組合が現在抱えている思想・原則・社会的役割・労働等の内在的課題を探る。バーク報告をふまえ、協同組合の労働の基本的視点を学ぶ。

○第2回 1993年5月13日（終了）○

協同組合の原点をオーエン、ロッヂデールに探る

講師：中川雄一郎（明治大学政経学部教授）

内容：来年はロッヂデール創立150周年。この実践は産業社会の基本問題に挑戦し新しい社会体制をめざすなかで協同組合の原点が培われた。協同組合の温故知新を学ぶ。

○第3回 1993年7月22日○

協同組合労働と社会変革とは

講師：池上 惇（京都大学経済学部教授）内容：協同組合での創造的労働と人間関係が社会を良くしていく道だという確信が求められている。運営の民主主義と同時に、労働と経済の民主主義・自治主義や協同組合の担い手意識の形成を探る。

○第4回 1993年9月○

協同の原理と生協への期待

講師：中西五洲（労働者協同組合連合会名誉理事）内容：日本において働く者が主人公になる新しい協同組合づくりにチャレンジ。最近では高齢者協同組合、労働者協同組合グループづくりに取り組む氏の経験から、協同の原理の実践哲学を学ぶ。

○第5回 1993年11月○

モンドラゴンの発展構造

講師：佐藤 誠（立命館大学国際関係学部助教授）内容：最近ではモンドラゴンについてかなりの紹介がされている。本講座では労働者生産、銀行、学校等の形態にとどまらず、制度・仕組・ルール等の内在的な要因をとおした発展構造を見ていく。

○第6回 1994年1月○

イタリアの人民の家と協同組合のコミュニティー

講師：後 房雄（名古屋大学法学部教授）内容：イタリア全土に展開する日常的な地域クラブ組織である人民の家。社会運動のセンター機能ももち社会的協同に貢献している。氏の永いイタリア留学と子育てコープの経験からも課題に迫る。

○第7回 1994年3月○

環境と福祉と北欧の協同組合

講師：富沢賢治（一橋大学経済学部教授、日本協同組合学会会長）内容：地球環境の保全、高齢者福祉は人類的なコンセンサスとなり、生活者レベルからの社会の再構築が求められている。北欧の事例を紹介し、最終講座として包括的な生協運動への提言を行なう。（敬称略、文責：広瀬謙一）